

令和7年度 第20回仙台城跡調査・整備委員会 議事録

I. 開催日時 令和8年1月16日（金） 10時45分～12時00分

II. 開催場所 仙台市役所上杉分庁舎12階 教育局第一会議室

III. 出席委員氏名

藤澤敦委員（委員長）、北野博司委員（副委員長）、安達幸信委員、稲葉雅子委員、
大山幹成委員、籠橋俊光委員、風間基樹委員（WEB参加）、佐浦みどり委員、渋谷セツコ委員、
永井康雄委員、深澤百合子委員

IV. オブザーバー 宮城県文化財課 生田班長

V. 事務局職員

（教育局生涯学習部） 伊勢生涯学習部長
（教育局文化財課） 長谷川文化財課長、川后仙台城史跡調査室長
（文化観光局観光戦略課） 畠山企画推進室長

VI. 会議の次第

1. 開会

（1）部長挨拶

2. 議事

（1）仙台城跡整備事業について

・仙台城大手門復元基本構想（中間案）に関するパブリックコメントの
実施結果について (資料1-1) (資料1-2)

・仙台城大手門復元基本構想（最終案）について (資料2-1) (資料2-2)

（2）その他

3. 閉会

VII. 傍聴人 3名

※会議録の署名について委員長は渋谷委員を指名

1 開会 部長挨拶

2 議事

(1) 仙台城跡整備事業について

【資料1-1・1-2】に基づき事務局より仙台城大手門復元基本構想（中間案）に関するパブリックコメントの実施結果について説明

【資料2-1・2-2】に基づき事務局より仙台城大手門復元基本構想（最終案）について説明

委員 長：事務局から説明があったように、パブリックコメントの結果を受けて、大きな骨子が変わるといような修正には今回なっていないかと思う。

この後ご意見をいただいた上で、場合によってはこのままこの委員会での最終案になるかもしれないので、言っておきたいことはぜひ意見を出していただきたい。

佐浦委員：資料では賛成意見も結構多いと思うが、市道仙台城跡線等を通して通勤とか通学とか、普段使う場所になっている方の心配される意見が結構気になった。外の人に還元するよりも中の人を大事にしてくださいみたいな意見が気になったので、そこをこういうことできちんと整備するということを丁寧に、そういった方たちにも理解していただくことが必要ではないか。

事務局：青葉山エリアについては、大手門や国際センターのほか、西公園の屋内遊び場、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設の整備を仙台市としては予定している。かなり交通環境の変化が生じる可能性があると考えており、交通量調査や将来交通シミュレーションを実施しているところである。

本来この（中間案公表の）タイミングでこういう対策をするということが言えると、より良かったのかもしれないが、調査の結果を踏まえて、具体的な対策は今後お示しするという形で進めたいと事務局としては考えていた。

委員 長：大手門復元に関わる場所だけではなく、もっと広いエリアで、周辺全体での交通量調査と将来交通シミュレーションを市全体として実施しているということが良いか。

事務局：仙台市として、大手門だけではなく、今後近い将来青葉山エリアに整備を予定している公共施設、音楽ホールなども含めて、一体的に交通環境の検討を行わないといけないという問題意識を持っており、大手門だけを抜き出して対策を今考えて打ち出すというところになかなかいかない実情がある。

そのため、まずは交通量調査と、大手門も含めたその他の公共施設ができた後の状況も踏まえたシミュレーションをこれから行って、その上で必要な対策を検討して実施していくという方針を立てており、その形に沿ってパブリックコメントの回答や基本構想の最終案を考えていくことになる。

従って、本来であればもう少し具体的に対策をこういうふうにしたい、していくというふうにお知らせできれば良いが、なかなかそういうわけにはいかないので、このような回答表現になっている。

深澤委員：教育的活用について先ほど説明があり、脇櫓を展示施設のように活用するという事だった。

中間案の概要版には、脇櫓のところに「安全性確保の上で改修し、内部を公開」とある。写真パネルを貼ったり展示とかミニ博物館みたいにするという話だったと思うが、ちゃんと教育的な活用をするということをもう少し強調した方が、パブリックコメントに対応できると思った。

事務局：概要版の修正については紙面の制約があるが、いただいた趣旨を最大限反映できるような形で修正を検討させていただく。

稲葉委員：基本構想は、基本的に作るという前提でこう進めるという表現なので、あまり賛成でない意見のパブリックコメントの方に対しては、なかなか納得いただけるような書き方ができないとは思っている。単体で大手門、単体で音楽ホール、そういうふうに単体でいろいろ説明していると思うが、青葉山一帯の基本構想、青葉山基本構想のような、全体があってその中の大手門はこういう位置付けだというものがあるような資料構成になっているとすごくありがたいと思うが、今はないのか。

事務局：仙台市として仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンというものを数年前に策定している。

ただ、あくまでもそのエリアを将来的にこうしていくというビジョンであり、計画とは違うので、そこに大手門は何年に復元する・しないや、音楽ホールを作る・作らないといった具体のところまでは書いていないものである。そのため、本市として、青葉山エリアを今後どうしていくかという検討と併せて、もう少しブレイクダウンしたようなものの必要性は一定あると思うので、市役所内部で意見を共有させていただきたい。

今回、大手門基本構想を作るにあたって、大手門以外の青葉山エリアについてはなかなか書き込みづらく、どうしても大手門を中心にした内容とならざるを得ない。

一方で、ご指摘のあった市道の問題は、やはり大手門だけで解決する問題ではないという側面があるため、本編の書きぶりやパブリックコメントの回答については、市役所内の道路部門はじめ、関係部署にも内容を確認してもらった上で、本日このような形で示しているため、市役所の意見を一定は反映しているというところで、ご理解をいただきたい。

稲葉委員：パブリックコメントの中で生活道路なのでという意見が出てくるのは、この後どうなるのかが調査中でなかなかわかりにくいので、皆さんが不安に思っているということだと思う。大学の先生方もそうだと思う。その辺りを並行して調査して、こういう形にしていくというものが随時見えると本当にありがたいかと思う。

委員長：パブリックコメントの結果と回答、特に資料1-1と1-2は、今後公表する予定はあるのか。

事務局：市のホームページで、公表していく資料である。

委員長：そうすると、具体的に書かれた方は自分のコメントに関して、この表にあるような対応を仙台市が考えているということはわかる形にするということか。

事務局：そのとおりである。

委員長：やはり生活で使われている方は、今後どうなるのかということが早く知りたい。迂回した場合の時間や、何らかの形で渋滞緩和措置が取られるのかどうか、皆さん関心がいくのは当たり前だと思うので、この場ですぐ答えられる状態ではないかと思うが、この委員会としても、そういう市民の声にぜひ配慮してできるだけ不安を早期に取り除くように、市として頑張っていただきたいという意見があったということは、市役所の中でもぜひ共有いただきたい。皆さんが納得、不安が解消されるような取り組みを今後ぜひ進めていただきたいという意見があったと

いうことでお願いしたい。

佐浦委員：我々も他人事ではなく、市民の皆さんのこともちゃんと考えながら進めているということが一般の方にもわかった方が共感してもらえるとと思う。

委員 長：一番関わりの深い市民の方にご理解いただくというのは非常に大事だと思うので、ぜひよろしくお願いしたい。

事務局：風間委員より、チャットにて「ただいまの議論、市道仙台城跡線等の道路について、概要版の修正は不要かもしれないが、交通に関して何をどのように検討し、その結果どのような判断に至ったのかが問われることは意識してほしい」というご意見があった。

副委員 長：市道の件や、この復元事業をやるよりは、もっと老朽化した道路や橋梁などの修理が先ではないかという反対論調の意見もあったと思うが、今は史跡や文化的なものを含めて、重要な社会のインフラの1つと位置付けられている。交通や電力などだけではなく、市民生活のインフラ整備の1つを新たに今回創造していく、歴史的な風景を今までないところに立ち上げて顕在化していく、新たな市民のコミュニケーションの場・集う場を作っていくという、そういう広い仙台市の施策としての位置付けを、もう少し説明のときに前面に出しても良い。まさにインフラ整備の1つであり、概要版で「新たなランドマーク」と書いてあるのはそういうことと思っている。
史跡の中に建造物を復元しただけと矮小化されるのではなく、もう少し大きな意味づけをして、ご理解を少しでもいただきたいというふうに感じた。

委員 長：よく史跡の整備か、他の道路のインフラ整備かどっちが先だという、秤にかけるような議論があるが、大きくインフラ整備の一環だととらえていただき、市民の方々にもご説明いただきたいと私も思った。

事務局：私どもとしてもそのようなつもりで、この事業に取り組んでいくつもりではあるが、今の話を受けて、例えばパブリックコメントであった市民生活にも配慮をというご意見への回答も含めて、本編の「将来的に目指す姿」のところに、これも市民インフラの1つとすることを目指しての事業であるというような文言を追加することで、パブリックコメントへの仙台市の意見も表明するというようにしてはどうかと考えたが、それで良いか。

副委員 長：もちろんそういう意図をもって今まで事業に取り組んできたこともわかるが、書き込めるのであれば今話した内容も踏まえていただけるとありがたい。

委員 長：可能な範囲で検討いただきたい。

副委員 長：やはり15億円という数字が出ると独り歩きする。行政側でいろんな議論があったと思うが、具体的にどこを参考にしたかということは、あまり委員会の場では出てこなかった。ここ5年ぐらいだけでも、金沢や高松、鳥取、水戸、今復元している白河などの事例があって、どういうスペックで復元するかによって工事費がピンキリである。おそらく仙台市が目指すものを横並びにしながら算出したと思うが、やはり誰が見ても安いと思う。算出した根拠がもしわかれば教えていただけるとありがたい。答えられる範囲でかまわない。

事務局：他の城郭の城門復元事例等を、ネット公開などわかる範囲で調べて、それをもとに仙台城大手門の延べ床面積等も踏まえながら試算をしたものである。

仙台城の櫓門の形式に近いところの事例を参考にさせていただいた。

副委員長：最高水準のところと比較されていると思うが、額が不安だったため聞いた。情報公開の問い合わせがあっても、ちゃんと説明できるバックデータがあればかまわない。

委員長：あくまでこれは建設費だけである。
下のただし書きから、全体の事業規模としては当然これには収まらないということは一応読み取れる形になっている。

事務局：スケジュールをご覧いただくとわかりやすいかもしれないが、大手門の工事は令和14年度から入る予定であり、オレンジ色の4カ年の線の部分について概ね15億円程度という見込みとなっている。その前段の基本設計、実施設計等は含めていない金額である。
また、周辺の整備に関しても、正面虎口や南西エリアでの工事も予定しているが、これらの金額についても含んでいない。発掘調査の結果や設計等を踏まえて精査していくと考えていたところである。
大手門復元は今から約10年後で、時間がかかる。近年の物価上昇や人件費の高騰を踏まえると、現時点で正確な数字を出すのが難しいというのが基本的な姿勢としてある。
一方で何も数字を出さないのも不誠実と考え、今可能な範囲で最も確からしい数字を出せるとしたら何かと考えたときに、大手門の床面積や構造規模は間違いがないため、面積単価で他都市の事例を複数引いてきて、それを大手門に当てはめて簡易的に算出したものがこの15億円という数字である。
なお書きにも書いているが、当然今後の物価上昇率等はなかなか見込めないし、あくまでも現時点での金額を算定根拠にした数字としている。
また、門だけではなくその周辺の整備については、基本構想の中で、例えば南西エリアを「見通しの良い空間」と書いているが、具体的に何がどうなるのかというのは、これから設計を詰めていかないとわからないこともあり、整備金額も見通すのが困難であるため、これも後の検討で設計を通じてその都度お示しするという形にしたものである。

渋谷委員：活用方針について、学校教育・生涯教育も入れていただき良かったと思うが、やはり学校教育や生涯教育などで何回も使ってもらうためには、集う場所が必要である。

いろいろな人たちがそこで一旦集まって、見学に出て一旦戻って考えをまとめたり、ワークショップをしたりするビジターセンターのようなものが必要とずっと思ってきたため、そういう検討をしていきたいというようなことを書いていただけたら、実現する可能性が高いと思うので、ぜひお願いしたい。

ビジターセンターで子どもたちがワークショップをしたり、大人も学習会をしながらお城を見学してまた戻ってはそこで勉強するというようなことが繰り返されることによって、市民の中にずっと根っこが張っていくのではないかと思うし、経験上からもそう思うので、ぜひその言葉を入れていただけようさらにもお願いする。

また、大きな範囲を計画的に考えていくのには、余りにもこちらの計画とあちらの計画というふうに分かれていて、なかなかそこまで意見を言うことが及ばないということは現実たくさんあるわけだが、だからこそ青葉山周辺のいろんな計画も含めた各活動計画の横断的な検討会は絶対必要だと思う。

市民はお城の復元はすごく賛成だけれども、自分の今の暮らしが阻害されることが、余分な時間を使われることで阻害されることが嫌だと言っているわけであって、決して根っこから反対しているわけではない。

そのため、各部署での横断的な検討会が絶対必要だと思う。仙台市は前々から内部での横断的な検討会がなかなか作れないという課題があったと思う。ぜひこれを機会に行っていただけたらと思う。

事務局：ビジターセンターについて、脇櫓を活用して、ガイダンス施設的な活用をしていくことを目指している。
こちらの方にその文言の挿入を検討させていただきたい。

渋谷委員：狭いのではないか。

事務局：脇櫓は確かに物理的に少しスペースの制約がある。

渋谷委員：もう少し大きいイメージである。

事務局：近くに例えば仙臺緑彩館という施設があり、その活用もできるので、ビジターセンター機能については、史跡としての整備の制約も踏まえながら、どのように書き込めるか検討させていただきたい。
また、横断的な検討だが、仙台市で青葉山エリアで共通に跨る課題を関係部署で集まって定期的に検討する会議体を今年度から設けており、道路についても、道路部会を設けて検討を行っているところである。
そのため、そこで今回の大手門基本構想のパブリックコメントの概要も報告をさせていただき、ご意見も踏まえながら共有・調整を図っていきたい。

委員長：2番目のことは、そういう広い場でぜひこういう意見があったということをお伝えいただくということだと思う。
また、1番目のことについては、だいたいこのような史跡整備ではガイダンス施設を作るが、基本は史跡の外であり、中には作れない。仙台城の場合は本丸にガイダンス施設があるが、かなり例外的に認めていただいた。
大手門に来られた方にどうガイダンスをしていくかということは、なかなか考えないといけないことで、当面、現実的にはそんなに多くない人数であれば脇櫓の活用で良いと思うが、そうでなければやはり仙臺緑彩館や国際センター、仙台市博物館などの既存の施設をいかにうまく使うかということが一番現実的かと思う。今「生涯学習での活用など」という赤が追加された次のポチの中に、仙台市博物館、仙臺緑彩館などが立地しており、こういうものの連携した活動の幅を広げていくと書かれているので、より積極的にうまく活用していくことを探るような形、現実的なところでまず書いていただくのはいかがか。

渋谷委員：そうしていただけたらすごく活用できそうで、希望が見えてくると思う。
どのようなものが完璧に良いかは、見切れないし想像し切れないところではあるので、やはり一部試行錯誤的にやっていかなければならないと思う。
ぜひそのような気持ちでいただければありがたい。

委員長：そういうことを考えながら今後行っていくという姿勢がわかるよう、書き加えていただく方向でぜひお願いしたい。

深澤委員：脇櫓の活用について、ガイダンス機能を有する施設として活用とか、もう少し具体的にミニ博物館とか、脇櫓が施設としての役割を果たすことがわかるようにしてほしい。
絵を見ても大手門に焦点が当たって、脇櫓が除外されているようなイメージにもなるので、ちゃんと脇櫓と大手門がセットになっていると、そういう感じでとらえていった方が今のような話は解消できると思ったので、大手門プラス脇櫓みた

いな感じで考えていただければと思う。

事務局：大手門を復元するだけではなく、その活用を促進していくには、そのすぐ隣にある脇櫓も一体的に使っていくことが必須というのはその通りであり、我々もその姿勢で取り組んでいくので、そのことが資料からも読み取れるような表現を検討させていただきたい。

委員長：概要版の「整備方針」の方に安全性確保を移動して、その1行分に上手くまとめてほしい。

深澤委員：具体的な活用方法とか、そういう形で。

委員長：うまくできそうな気がするので、ぜひお願いしたい。

大山委員：18ページの市道仙台城跡線等の整備のところだが、主に歩行者用の通路等を整えることで歩行者の安全確保ということだが、仙台城本丸の北西石垣、東北大学植物園との境のあたりは歩道としては何か整備されるのか。
東北大学との間に柵がないところがあり、歩行者の安全確保として何か考えたほうが良い場所もあるような気がする。車両の通行（制限）だけで安全確保ではなく、歩道として整備したりとか、そのあたりの考えをうかがいたい。

事務局：二次交通の整備等とあわせて、原則としてはやはり歩行者の方が安全に歩けることを優先したいと考えているので、歩車分離であるとか、歩道や柵をつけるかということも整備の計画の中で検討していきたい。

大山委員：基本構想には何か付け加えられないのか。

委員長：車両の制限をして、歩行者が安全に散策できるようにという意図で文章が書かれているので、当然必要な安全対策は今後していくということで、文言でわかりやすくする工夫を検討していただければと思う。

事務局：ご意見をいただいたので、表現の追加ができないか検討する。

委員長：今日のご意見は大きな方向性が変化するというよりも、よりわかりやすくという軽微な修正と理解した。
事務局の考えとしては、骨子は本日の議論で十分に検討尽くされたと判断して、委員会での議論は今回で終わりで良いか。
細かな文言の確認については、差し支えなければ私と副委員長にご一任いただき、最終的に今日の意見が反映されているか我々で確認させていただいて、決定という段取りとしたい。それ以外にも、今後の事務局の検討の中で細かな言い回し的なところでわかりやすい修正があった場合、それも私と副委員長の方で確認させていただきたいと思う。

一 同：（了承）

委員長：本日予定された議事としては以上となる。
「(2) その他」の方に移るが、報告する事項について事務局からあるか。

(2) その他

事務局：今後の基本構想が決定されるまでのスケジュールについて共有させていただく。

本日議論いただいた意見を踏まえて修正を加えた事務局の確認については、委員長・副委員長に一任すると了承をいただけたので、そのように進めさせていただければと思う。また、細かい内容の精査については引き続き事務局で行い、お諮りしたいと思う。

委員長・副委員長の了解によってまとまった基本構想案については、皆様にメール等にてご確認いただきたい。

今後は2月の定例教育委員会及び常任委員会で報告をさせていただき、3月の基本構想策定を目指して参る。パブリックコメントの実施結果については、常任委員会の報告とあわせてホームページ等で公表していく。

次に、次回の仙台城跡調査・整備委員会だが、今年度の実績と次年度の事業予定を中心にお諮りする予定である。開催時期は3月で再調整できればと考えている。

詳しいことについては、担当から改めてご確認、ご連絡をさせていただく。

委員長：その他、委員の皆さんから何かあるか。

なければ本日の議事及び報告は終了し、進行は事務局にお返しする。

事務局：最後に、本日オブザーバーとしてご出席をいただいた県文化財課生田班長より一言頂戴したい。

県文化財課：仙台城の大手門基本構想については、一定の成果、結果が出るというところで、議論を深めて完成となるため、皆様方非常に苦労が多かったと推察した。

大手門も含めて、仙台城跡の整備についてはまだまだこれから長い間をかけて検討していくべき案件だと思うので、引き続き委員の皆様方と仙台市の事務局の方々と連絡を密にして、また文化庁と一緒に足並みそろえて進めていきたいと考えているため、引き続きよろしく願います。

事務局：以上をもって第20回仙台城跡調査・整備委員会を閉会とする。